

Ⅱ 生活と学習のサブリノートの活用

1 生活と学習のサブリノートの取り組みについて

この取り組みを始めるにあたって、二つの点を考慮した。

まず一点目は、基礎学力の定着には、家庭学習の充実が必要不可欠であるという点である。家庭学習で行う学習内容としては、復習及び予習ということになるであろう。学校で学習してきた学習内容を着実に身に付けるためには、振り返り学習及び反復学習である復習と、次回学習のために予備知識などを習得し、学習に対する準備性（レディネス）を高め、学校での学習活動を円滑にする予習が重要な位置を占める。その復習及び予習を行う場の中心となるのは家庭における学習であるのは言うまでもない。また、規則正しい生活習慣を身に付けることが適切な学習時間の確保につながり、それが、学力を高めることにつながる。

二点目は、生徒理解に関する点である。加齢するにしたがい、子どもはその成長過程から保護者の干渉を嫌い、距離を置き、なかなか会話もしなくなるような場合も見られる。よって、保護者は、子どもの学校での状況を把握することが難しいものとなってくる。また、我々学校側の教員も、生徒の家庭での状況は把握しづらい面もある。学校及び保護者の双方で生徒の学習及び生活状況を見合うことができれば、生徒の規則正しい生活を作り助け、学力の向上を図ることができると考えられる。

以上の二点から、家庭（保護者）と学校、生徒との連携を図り、家庭学習の充実を図るために、「生活と学習のサブリノート（※以下サブリノートと記す。）」の活用を行うことにした。

2 生活と学習のサブリノートの記載内容と活用方法

(1) サブリノートの内容

- ① **学習の記録**：次の授業の学習内容、課題を記録し、学習の準備性の向上と、振り返り学習の資料とする。家庭学習状況の記録により、生徒の学習状況を把握する。
- ② **一日の生活記録**：一日の活動を振り返り、反省や感想を記入する。また、悩みごとや学校（教員）への質問などを記入する。教員・保護者が生徒の一日の様子を確認する。コメントをやり取りすることで生徒理解を図る。
- ③ **週末の記録**：学校外での生徒の生活の様子を確認する。
- ④ **保護者のコメント欄**：保護者からの意見、感想などを記入し、学校との連絡に利用する。
- ⑤ **長期休業中の生活記録**：夏季、冬季、春季休業中の生活及び学習の状況を記録をする。
- ⑥ **読書の記録**：朝読書の時間及び日常の読書記録に利用する。

(2) 活用の仕方

前日の終学活にて、明日の予定、課題、学習内容を記す。帰宅後、家庭において、家庭での学習内容、今日一日の様子を記入し、翌日の朝学活時に提出する。教員（担任）が確認、コメント等を記入して返却するという方法をとる。保護者の欄は一週間に一度、週末等に記入してもらうという方法をとった。

※サブリノートの記入欄の実際は、図－1を参照のこと。

図－1 生活と学習のサブリノート

1 年生の例

目標 (授業に遅れないようにしよう！)

12月4日(金) 天気 (晴)	教科連絡	時	教科	教科の持ち物・宿題	家庭学習	時間	教科と内容
		1	国語	植口のノート、教科書、ワーク資料集		6:30～8:00	塾での英語
		2	英語	教科書、ノート×2、ワークビゴファイル		～	
		3	技術	教科書、ノート、資料集		～	
		4	社会	近野のノート、教科書、ワーク地図帳		～	そうとあの先生たちも
		5	理科	第2分野のノート、ワーク、資料集		～	頭微震のテスト
	6	数学	教科書、図形ノート、問題集			呼びかけています、いつもいろいろ教えてくれてありがとうございます。	
生活の記録	今日はどの教科も静かにできたんじゃないかと思います。どの教科も授業中は集中してよかったと思いますが…休み時間のあそび方がすごいな～と思いました。男は3Fを走り回して、女は教室を追いかけまわしたり…。いつかはやがにがついてしまう…と思うと苦しいです。できれば、けがをなくしたいので走り回るのをやめた方がいいと思います。						

12月5日(土) 天気 (晴)	家庭学習	午後	時間	教科	内容	保護者からの一言
		10:30～11:00	社会	歴史編 縄文時代		
		～	国語	漢字練習		
		～				
生活の記録	今日は、お母さんの実家千葉のおばあちゃん家に行きました。いとこたちも来て、すごにぎやかでした。夜はお寿司を食べました。おいしかったです。勉強もしました。					先生からの一言

12月6日(日) 天気 (晴)	家庭学習	午前	時間	教科	内容	先生からの一言
		11:00～12:00	数学	計算問題		
		12:30～1:00	国語	漢字練習		
		～				
生活の記録	今日は日曜日になったので、千葉→東京に帰ってきました。それから、テレビをみたり、勉強したりしました。必家中でゴロゴロして、明日の用意もしました。					先生からの一言

3 年生の例

12月1日(火) 天気 (晴)	教科連絡	時	教科	教科の持ち物・宿題	家庭学習	時間	教科と内容
		1	理科	(問)		6:30～7:30	女子ワーク
		2	社会	A地理		7:00～8:00	〃
		3	体育	体育着		22:00～23:00	英ワーク
		4	音楽	(問)		～	
		5	英語	スピーキングテスト			
	6	総合					
生活の記録	理科と音楽のテストが戻ってきました。勉強したおかげで、できていなかったのが多かったです。どの科目も、次回は、もっと勉強しておきたいです。原因をちゃんと見つけて、同じことの繰り返しにしないでいいます。						

2 年生の例

11月30日(月) 天気()	時	教科	教科の持ち物・宿題	時間	教科と内容
	1	理科	いつも えのぐ、折りばし、ビニール	10:00~12:30	ほか、リハ、こころ
	2	国語	のり、はさみ、整灯	~	
	3	理科	コンパス、色エンボス	~	
	4	数学		~	
	5	美術	▽習字セット		
	6	総合			
生活の記録					
理科と国語の点数が下がったので、復習をしました。バカなミスがいつもあったので残念です。入試当日はほかのミスがなくなるように練習したいと思います。あと、少し数学の進度が速い気がします。来年度は模試で、全範囲の問題に出るで少し大変です。					
一度やめたけど、今更にあるとやがたおもしろいのかもです。					

3 生活と学習のサブリノートの記載内容と活用方法

(1) 昨年度調査との比較

サブリノート利用状況を調べるために、提出状況を調査した。その方法として過去に行った調査と今年度の調査の結果を比較検討する。

- ・表1-1「提出状況について①」は、平成19年11月に実施した調査で、現在の3年生（平成19年度入学）が1年次の時のものを記載している。
- ・表1-2「提出状況について②」は、平成20年10月に実施した調査結果である。現在の2年生（平成20年度入学）及び3年生を記載する。
- ・表1-3「提出状況について③」は、本年度（平成21年10月）の結果である。

表1-1 「提出状況について①」（平成19年度）

学 年	良 い	良くない	調査対象数
3 年 生（1 年次）	7 1 . 0 %	2 9 . 0 %	1 0 7
全 体	7 0 . 8 %	2 9 . 2 %	2 6 4

表1-2 「提出状況について②」（平成20年度）

学 年	良 い	良くない	調査対象数
3 年 生（2 年次）	4 0 . 7 %	7 1 . 4 %	1 0 3
2 年 生（1 年次）	7 1 . 4 %	2 8 . 6 %	1 0 5
全 体	6 0 . 0 %	4 0 . 0 %	2 8 0

表1-3 「提出状況について③」（平成21年度）

学 年	良 い	良くない	調査対象数
3 年 生	6 6 . 1 %	3 3 . 9 %	1 1 2
2 年 生	8 4 . 5 %	1 3 . 5 %	9 7
1 年 生	8 7 . 2 %	1 3 . 8 %	9 4
全 体	7 8 . 5 %	2 1 . 5 %	3 0 3

全体の提出状況の結果を見比べてみると、本年度、全体では78.5%のが提出率が得られた。昨年度が60.0%であったので大きな伸びがみられる。

学年ごとでは、2年生と3年生においては、学年が上がることにより、大きく変化していることがわかる。

3年生は、平成19年度（1年次）は、71.0%であったが、平成20年度は、（2年次）40.7%と大きく下降してしまった。だが、表－2「提出状況について②」で「良くない」に分類した71.4%の内、まったく提出をしていない者は、3年生の調査対象者103人中、39人で37.9%であるので、残り33.5%の者はサプリノートを何らの形で活用をしている。

この提出状況の下降の原因は、中学校生活の活動が本格化し、そこから生じる慣れなどの気持ち的な面の変化と教員側の働きかけなどの不足がこの結果を招いたのではないかと考えられる。平成21年度になると67.9%となり、提出状況が回復した。

次に、特に大きな変化が見られたのは2年生である。入学年の平成20年度（1年次）は、71.4%であったが、平成21年度は84.5%となり13.1%の大幅な伸びとなった。

最後に平成21年度に入学した1年生の結果は、87.2%であった。

このことから、サプリノートの活用が三年目を迎え、試行錯誤で始めた3年生から、ある程度の活用に対しての基礎が形成され、利用を開始した1・2年生の方に提出状況の割合が高く出た影響が推測できる。さらに、その取り組みが全体に浸透し、教員個々の理解なども深まることによって、現在、本校の教育活動における基幹となるものになったとも考えられる。また、今年度の調査結果で「提出状況が良くない」としている者も、提出ができない理由として「生活記録の欄の記入を忘れたため」「提出を忘れた」などをあげている。つまり、利用しているが、提出することを忘れてしまうという理由の者が多く見られるということである。さらに、付け加えるならば今回、平成21年度の調査は10月期に実施した調査である。それゆえ、3年生の中に多くみられた意見から感じられるのであるが、「部活動や塾などの活動が忙しい」「時間がなくて記入できない」など、受験を控えた学年の特有の理由がみられた。3年生でも1学期の時点での提出状況を振り返ってみると、全体の提出率と同じぐらいの割合があったことは確かである。これは、各担任が実施している、「提出状況記録」からも分かる。しかし、中には「必要性を感じない」「めんどくさい」などの理由から利用をしていない者もいることは、事実である。それらの生徒に対して、このサプリノートの有効性を示し、その活用を指導していくことが必要であると考えられる。

(2) 生徒の利用内容

生徒がどのようにこのサプリノートを利用しているかの調査を実施した。回答は、複数回答となっている。結果、表2「サプリノートの利用状況」のような結果を得ることができた。このノートの中心となっている、生活の記録に関係する事項は除き、他の利用状況について回答が得られたものを示すことにする。結果から分かるように、「持ち物チェック」59.1%と全体の半数を占めた。

その他として、「予定の記入・確認」33.0%、「宿題・課題などの確認」43.2%、「次回の授業内容の確認」38.9%など学習に関する確認や予定の確認など学習及び学校生活に対する準備に関して用いられることが多くあがっている。また、「次回授業内容の確認」が学年が上がるごとに割合が増加している。

3年生では、約半数の 49.1 %の者が次回授業内容の確認に利用している点が着目できる。これは、このサプリノートの活用に関する目標の一つである学習準備性の向上にこのノートの取り組みが影響していると考えられる。

表 2 「サプリノートの利用状況」

項 目	3 年	2 年	1 年	全 体
持ち物チェック	7 4 . 1 %	4 7 . 4 %	5 3 . 2 %	5 9 . 1 %
予定の記入・確認	4 0 . 2 %	2 5 . 8 %	3 1 . 9 %	3 3 . 0 %
宿題・課題などの確認	5 0 . 0 %	3 7 . 1 %	4 1 . 5 %	4 3 . 2 %
次回授業内容の確認	4 9 . 1 %	2 5 . 8 %	4 0 . 4 %	3 8 . 9 %
学習状況の記録(読書記録)	1 7 . 9 %	1 8 . 6 %	1 0 . 6 %	1 5 . 8 %
調 査 対 象 人 数	1 1 2	9 7	9 4	3 0 3

(3) 保護者の利用について

生徒の生活の場の主は家庭である。生徒の生活状況、学習状況を良い方向にもっていくためには、家庭との連携なくしてはあり得ない。その改善を目指して活用を始めた、このサプリノートに関しても保護者側の協力はなくてはならないものである。このノートを通し、保護者が生徒の学校での様子、学習状況を把握することで、生徒に対する認識と働きかけの内容がより良いものとなることができると考えられる。また、学校側も保護者との連携が図ることができ、学校では分からない生徒の様子の変化や、保護者の考えなどを理解することができる。

① 保護者の確認状況

表 3 - 1 「保護者のサプリノートを確認（点検）状況」及び表 3 - 2 「生徒がサプリノートを記入をしているのを認識している保護者の割合」の調査結果から、サプリノートを保護者が確認している者は全体で60.9%の割合となった。また、生徒がサプリノートを記入していると把握している者は 73.5 %と高い割合が得られた。

本校では、保護者に対して、四月の入学当初のガイダンス時にサプリノートの取り組みを紹介し、その取り組みに関して協力を依頼している。この結果より、サプリノートの取り組みは、保護者の理解を得て、着実に根付いてきていると考えられる。

表 3 - 1 「保護者のサプリノートを確認（点検）状況」

学 年	確認している	確認していない	調査対象数
3 年 生	5 3 . 8 %	4 6 . 2 %	8 0
2 年 生	8 4 . 6 %	1 5 . 4 %	5 2
1 年 生	7 8 . 1 %	2 1 . 9 %	6 4
全 体	6 0 . 9 %	3 0 . 1 %	1 9 6

表 3 - 2 「生徒がサプリノートを記入をしているのを認識している保護者の割合」

学 年	確認している	確認していない	わからない	調査対象数
3 年 生	5 8 . 5 %	2 5 . 0 %	1 6 . 3 %	8 2
2 年 生	8 2 . 7 %	3 . 8 %	1 3 . 5 %	5 2
1 年 生	8 4 . 4 %	4 . 7 %	1 0 . 9 %	6 4
全 体	7 3 . 5 %	1 2 . 8 %	1 3 . 8 %	1 9 6

② 保護者に見せない生徒の割合

表4は、「自分の子どもはサプリノートを見せているか」及び表5は、「サプリノートを保護者に見せているか」の調査結果である。その結果から、子どもがサプリノートを見せないとしている保護者の割合は、30.2%、また保護者にサプリノートを見せていない生徒の割合は40.3%で、生徒、保護者とも同様な回答が得られた。生徒が保護者に見せない理由としてあげられるのは、「自分が面倒くさい、見せるのを忘れる」「親が忙しい、時間がない」という意見と「保護者に見られたくない」「見せる必要がない」などである。学年が上がり生活環境が変化するに従い、この状態は増えている傾向がある。3年生では、半数以上の51.8%の割合であった。これは、心の成長という側面（青年前期の特徴）の一つであることは否めない。

表4 「自分の子どもはサプリノートを見せているか」

学 年	見せる	見せていない	調査対象数
3 年 生	54.3%	55.7%	81
2 年 生	84.5%	15.5%	52
1 年 生	79.6%	20.4%	64
全 体	69.8%	30.2%	197

表5 「サプリノートを保護者に見せているか」

学 年	見せる	見せていない	調査対象数
3 年 生	48.2%	51.8%	112
2 年 生	76.2%	23.8%	97
1 年 生	56.3%	43.7%	94
全 体	59.7%	40.3%	303

③ 保護者記入欄について

一週間に一度、保護者にコメントを記入してもらう欄を設けている。

その結果が、表6「保護者の記入欄の利用状況」の調査結果である。これにより分かるように全体の62.2%の保護者がその欄に記入をしていることが分かる。その対象は、学校及び生徒本人に対してがもっとも多く、内容も「子どもの家庭での様子（週末のこと、健康）」、「学校への依頼（先生への連絡・質問）」「子どもへのメッセージ（励まし）」が多かった。このように幅広く利用されている。

表6 「保護者の記入欄の利用状況」

学 年	利用している	利用していない	調査対象数
3 年 生	47.5%	52.5%	80
2 年 生	78.8%	21.2%	52
1 年 生	67.2%	32.8%	64
全 体	62.2%	37.8%	196

4 利用による効果（※提出を利用していると判断する）

(1) 学習関係提出物の状況

表7の「学習関係提出物の状況」の調査結果から、全体（サプリノートの提出（利用）状況を関係を加味しない場合）の割合では、学習関係提出物が良い者は、76.6%であり、

良くない者は 23.4 %であった。この提出物の状況が良い者、76.6 %の内、10.6 %の者は、サブリノートの提出状況が良くない者であり、良い者は、66.0 %である。また、学習関係提出物が良くない者 23.4 %の内、12.5 %の者は、サブリノートの提出（利用）状況が良い者であり、良くない者は 10.9 %であった。

このことから、提出状況の良い者のほとんどの者にサブリノートの利用があり、良くない場合の半数の者にサブリノートの利用がなかった点に注目できる。

表 7 「学習関係提出物の状況」

学習関係提出物 サブリノート提出	提出が良い	提出が良くない	調査対象数
サブリノート提出が良い	66.0 %	12.5 %	232
サブリノート提出が良くない	10.6 %	10.9 %	71
全 体	76.6 %	23.4 %	303

(2) 学習関係以外の提出物の状況

表 8 の「学習関係以外の提出物の状況」の調査結果から、全体（サブリノートの提出（利用）状況を関係なくみた場合）では、学業関係提出物が良い者は、78.6 %であり、良くない者は 21.4 %であった。この 78.6 %の内、11.5 %の者は、サブリノートの提出（利用）状況が良くない者であり、67.7 %は良い者である。また、学習関係提出物が良くない者 21.4 %の内、11.5 %はサブリノートの提出（利用）状況が良い者であり、提出（利用）状況が良くない者は 9.9 %であった。この結果は、学習関係提出物の状況と同様な割合であり、良い場合のほとんどの者にサブリノートの利用が認められ、良くない者の半数の者にサブリノートの利用がないことが分かった。

表 8 「学習関係以外の提出物の状況」

学習関係以外提出物 サブリノート提出	提出が良い	提出が良くない	調査対象数
サブリノート提出が良い	67.7 %	11.5 %	246
サブリノート提出が良くない	10.9 %	9.9 %	57
全 体	78.6 %	21.4 %	303

(3) 学習状況について（授業への取り組み姿勢）

表 9 「学習状況について（授業への取り組み姿勢）」の調査結果から、全体（サブリノートの提出（利用）状況を関係なくみた場合）では、学習状況が良い者は、81.2 %であり、良くない者は 18.2 %であった。授業への取り組みが良い者の内、40.2 %が 3 年生である。学習状況が良い者、81.2 %の内、13.6 %の者は、サブリノートの提出（利用）状況が良くない者であり、良い者は、67.7 %である。また、学習状況が良くない者 18.8 %の内、サブリノートの提出（利用）状況が良い者は 10.9 %であり、その差は 7.9 %であった。授業への取り組みの姿勢においても、提出物の状況と同様な割合が得られた。

学習状況が良くなった理由として「計画的に、集中できるようになった、気持ちの変化」、「テストにからみ学習するようになった」「受験対策のため」「危機感がでてきた」「成績を意識」などがあげられた。多くはないが、「サブリノートで学習時間を確認できるようになった」という意見も見られた。また、学習状況が良くなった理由として、

「他の活動で時間がなくなる」「疲れからめんどくさくなった」が多くあがっている。

表 9 「学習状況について（授業への取り組み姿勢）の状況」

授業への取り組み姿勢 サブリノート提出	良い	良くない	調査対象数
サブリノート提出が良い	67.7%	10.9%	246
サブリノート提出が良くない	13.5%	7.9%	57
全 体	81.2%	18.8%	303

(4) 生活状況について（規則正しい生活）

表10「生活状況について」の調査結果から、全体（サブリノートの提出（利用）状況を関係なくみた場合）では、学習状況が良い者は、72.3%であり、良くない者は27.7%であった。生活状況が良い者、72.3%の内、14.8%の者は、サブリノートの提出（利用）状況が良くない者であり、良い者は、57.5%である。よって、サブリノートの利用状況が良い者は生活状況も良好であるということが分かる。生活状況が良くない者 27.7 %の内、21.5 %はサブリノートの提出（利用）状況が良い者であり、良くない者は 6.2 %であった。サブリノートの利用状況が良く、生活状況が良くないと回答した者の理由として「学習のため」「睡眠時間にばらつきがある」などがあげられた。

表 10 「生活状況について（規則正しい生活をとれているか）」

規則正しい生活 サブリノート提出	良い	良くない	調査対象数
サブリノート提出が良い	57.5%	21.5%	246
サブリノート提出が良くない	14.8%	6.2%	57
全 体	72.3%	27.7%	303

(5) 保護者からみた効果

表11「サブリノートの利用による効果」の調査結果から、サブリノートの利用により、子どもに対して何らかの効果があったとしている保護者は全体の 67.3 %にのぼっている。その内容として、「子どもの様子（学校の様子）が分かる」「先生の考え方が分かる。先生とのコミュニケーションとれる。子どもへの助言が良い」「子どもの考えが分かる」「親子の話し合いのきっかけとなっている」「習慣化することで規則正しい生活に寄与した」などの回答が得られた。この中でも多かったのは、「子どもの様子（学校の様子）が分かる」が全回答の 49.7 %、「先生の考え方が分かる。先生と（子ども・保護者）コミュニケーションとれる。」が 29.8 %、「子どもの学校での様子が分かる」が 11.0 %であり、コミュニケーションの増大による良好な関係づくりが効果としてあげられる。

表 11 「サブリノートの利用による効果」（保護者）

学 年	効果があった	とくになし	調査対象数
3 年 生	50.0%	50.0%	80
2 年 生	78.8%	21.2%	52
1 年 生	79.7%	20.3%	64
全 体	67.3%	32.7%	196

4 生活の記録欄の利用

(1) 効果について

① 生徒の場合

生活の記録欄の利用による効果を考えた場合の調査結果が表12である。

一番多い回答は、「その日を振り返ることができる」で全体の81.9%で、次に「先生とのコミュニケーションがとれる」5.3%であった。それ以外の回答としては、「継続をすることで力がつく」「文章作成の力の向上につながる」「質問（悩み）などを記入することができて便利」などがあつた。効果の一つであげられた「先生とのコミュニケーションがとれる」という点は、生活記録欄の利用の効果という調査をした時点では、回答は少なかったが、サプリノートの利用で教員との関係に言及し調査をしたところ、教員との関係に「変化なし」という回答をする者が多数を占めた。「変化なし」と回答した者で、現在の教員との関係が良好な者は、このように回答した者が多くいることは確かである。注目する点は、教員との関係が「良くなった」と回答した者が全体の24.8%にのぼったことである。その理由の中に、「日記に関してきちんとコメントをくれた」「サプリノートから話題が出るようになり、話が続く」「会話が増えた」「家での自分を知ってもらえる」などコミュニケーションの増加により相互の関係改善が図ることができたという理由が述べられている。サプリノートを用い、文字を通してであるが、会話の機会が増え、人と人とのつながりがより強く結ばれ、関係が良くなったことは大きな成果であると言える。

表 1 2 「生活記録欄の利用による効果（生徒）」

項 目	全 体
その日を振り返ることができる。	8 1 . 9 %
先生とのコミュニケーションがとれる。	5 . 3 %
質問（悩み）などを記入することができて便利	4 . 3 %
文章作成の力の向上につながる。	4 . 1 %
継続をすることで力がつく	1 . 8 %
その他	2 . 6 %
否定的意見（とくに何も無い等）	1 . 8 %
調 査 対 象 人 数	1 7 1

② 保護者の場合

前述のサプリノートの利用の効果に記したが、保護者の多くは、教員側と生徒の生活記録欄でのコメントのやり取りによる良好なコミュニケーションに対して、効果があつたという回答が得られた。そのやり取りから、学校側の対応や教員の指導姿勢などが分かる、また、生徒自身の考え方、学校の様子が把握することができるとしている。

③ 教員の場合

サプリノートの活用の利点として、教員側からの意見は以下のようなものである。

「生徒の気持ちが素直に書いてあり、友人関係を知ることができた」「日頃の生徒の様子が分かる」「保護者を含め理解が深まる」「生徒気持ちを把握することができる」「コメントに関して返事をくれる、コミュニケーションになった」「学校外での様子が分かる」などがあげられた。

生活記録欄の利用により、生徒とのコミュニケーションの幅が増大し、良い関係づくりができ、生徒理解が深まったと回答している教員が多い。普段の生活において、クラス全員の生徒と会話をする機会は、時間的制約などもあり難しいといえるのが現状である。このサプリノートを紹介することによって、一日一回ではあるが、会話をすることができるためこのような回答が得られたと考える。

(2) 課題について

生活記録の欄を一日一回、記入し提出することが大変だという意見が多い。生徒の中で、提出しない理由の多くはこの点があげられた、このことについては、検討すべき点と思われる。さらに、教員側からも点検をすることの大変さがあげられている。ただし、日々のコミュニケーションをとるという観点から考えるとこの作業は重要なことで、なくてはならないものとなる。この点が今後、実施を継続する上での課題である。

また、表4「自分の子どもはサプリノートを見せているか」及び表5「サプリノートを保護者に見せているか」の結果から分かるように、生徒の中には保護者に点検を受けることを嫌がる者がいることも事実である。このような点もまた、課題として挙げられる。

5 家庭学習について

(1) 家庭学習の状況

表 1 3 「家庭学習の状況」

家庭学習の実施	生 徒			保護者から見た
	全 体	提出が良い	提出が良くない	
毎日している	2 8 . 4 %	2 3 . 1 %	5 . 3 %	4 0 . 8 %
不定期にしている	6 3 . 4 %	5 0 . 5 %	1 2 . 9 %	3 8 . 8 %
していない	8 . 2 %	5 . 0 %	3 . 2 %	2 0 . 4 %
調査人数	3 0 3	2 3 8	6 5	1 9 6

※提出はサプリノートの提出状況をさす。

※全体は、サプリノートの提出状況を関係なく見た場合。

表13「家庭学習の状況」の調査結果から、全体（サプリノートの提出（利用）状況を関係なくみた場合）では、家庭学習を実施している者（「毎日している」「不定期にしている」を含める）は、91.8 %であり、実施していない者は 8.2 %であった。この 91.8 %の内、18.2 %の者は、サプリノートの提出（利用）状況が良くない者であり、その差は、73.5 %である。家庭学習を実施している者の多くはサプリノートの利用をしている者であると考えられる。また、家庭学習を実施していない者 8.3 %の内、3.2 %はサプリノートを提出していない者であった。

家庭学習を実施しない理由としてあがった意見は、「めんどくさい」「やる気がおきない」「部活動や塾の学習で時間がない」「他の活動で疲れてしまう」「やり方がわからない」などがあがっている。

(2) 保護者から見た状況

表13「家庭学習の状況」の調査結果から、保護者から見て、子どもが家庭学習を実施していると回答した者（「毎日している」「不定期にしている」を含める）は、79.6 %で、実施していない者は 20.4 %であった。生徒の回答は先に述べたように、家庭学習を実施し

ている者は 91.8 %、実施していない者は、8.3 %という回答であったので、保護者と生徒の間では時間的なものや学習のやり方などに対する認識にずれが見られる。保護者の回答の中には「塾の勉強しかしていない」「宿題しかやらない」などの場合は家庭学習を実施していないとする見解があり、それが理由と考えられる。

(3) 家庭学習の変化とサブリノート利用との関係

① 3年生の変化（平成19年度入学生）

今年度の3年生は、サブリノートの活用を始めて三年目を迎える。よって、小学校卒業時から現在にいたるまでの家庭学習の様子の変化を追うことができる。表14-1「3年生（平成19年度入学生）の家庭学習の変化」の調査結果を参照いただきたい。小学校時代と中学校1年時の家庭学習の状況において、「良くなった」と回答した者は、3年生全体の22.3%であった。その良くなったと回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者の割合は、17.0%で8割近い者がサブリノートを提出（利用）していた。家庭学習の状況が「良くなかった」者は全体の13.4%で家庭学習の状況に「変化なし」が64.3%である。

中学校1年から中学校2年の変化は、「良くなった」と回答した者は、3年生全体の15.2%であった。その良くなったと回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者は、13.4%であった。家庭学習の状況が「良くなかった」者は、全体の13.4%で「変化なし」が71.4%であるので、前年度と比較すると、「良くなった」者には変化がなく、「変化なし」の者が増加した。

最後に中学校2年から中学校3年の変化である。「良くなった」と回答した者は、3年生全体の58.0%であった。受験期を迎え、増加の傾向にあるのは言うまでもない。だが、「良くなった」と回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者の割合は42.9%という結果が得られた。家庭学習の状況が「良くなかった」と回答した者は全体の6.3%で「変化なし」と回答した者が35.7%であるので、前年度と比較すると、「良くなった」者、「変化なし」の者がそれぞれが減少している。よって、昨年度にくらべ家庭学習の状況は良くなってきている。加えて、サブリノートの提出（利用）の割合が増加しているので、利用により家庭学習の改善にサブリノートの活用が効果を挙げているものと考えられる。

表14-1 「3年生（平成19年度入学生）の家庭学習の変化」

家庭学習の状況	全 体			サブリノートの提出が良い			サブリノートの提出が良くない		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
小学6年～中学1年	22.3%	64.3%	13.4%	17.0%	41.1%	8.0%	5.0%	23.2%	5.4%
中学1年～中学2年	15.2%	71.4%	13.4%	13.4%	47.3%	5.3%	1.8%	24.1%	8.1%
中学2年～中学3年	58.0%	35.7%	6.3%	42.9%	19.6%	3.6%	15.1%	16.1%	2.7%
(調査人数121)	100%			100%					

※家庭学習の状況の○は「良くなった」、△は「変化なし」、×は「良くなかった」を表す。

② 2年生の変化（平成20年度入学生）

今年度の2年生は、サブリノートの活用を始めて二年目になる。小学校時代と中学校1年時の家庭学習の状況は、「良くなった」と回答した者は、2年生全体の32.0%であった。その良くなったと回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者の割合が27.8

%で9割近い者がサブリノートを提出（利用）していた。家庭学習の状況が「良くなかった」者は全体の13.4%で家庭学習の状況に「変化なし」が54.6%である。

中学校1年から中学校2年の変化は、「良くなった」と回答した者は、2年生全体の42.3%であった。その「良くなった」と回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者は、38.1%であり、ほぼ全員がサブリノートを提出（利用）している。家庭学習の状況が「良くなかった」者は全体の14.4%であり、43.3%の者が「変化なし」としている。前年度と比較すると、「良くなかった」者は、微増で「変化なし」の者が減少した。そして、「良くなった」の全体の割合が増加している。このことから、中学1年次の「変化なし」と回答した者が「良くなった」「良くなかった」のに分かれたものと考えられる。また、サブリノートの提出（利用）状況は前年度に比べ増加したので、家庭学習状況改善にサブリノートの利用が関係していると思われる。

表14-2 「2年生（平成20年度入学生）の家庭学習の変化」

家庭学習の状況	全 体			サブリノートの提出が良い			サブリノートの提出が良くない		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
小学6年～中学1年	32.0%	54.6%	13.4%	27.8%	45.4%	11.3%	4.2%	9.2%	2.1%
中学1年～中学2年	42.3%	43.3%	14.4%	38.1%	35.1%	11.3%	4.2%	8.2%	3.1%
（調査人数 97）	100%			100%					

※家庭学習の状況の○は「良くなった」、△は「変化なし」、×は「良くなかった」を表す。

③ 1年生の状況（平成21年度入学生）

小学校時代と中学校1年時の家庭学習の状況について、「良くなった」と回答した者は、1年生全体の43.6%であった。その良くなったと回答した者の内、サブリノートを提出（利用）している者は、42.6%でほぼ全員の者がサブリノートを提出（利用）していた。家庭学習の状況が「良くなかった」者は全体の20.2%で家庭学習の状況に「変化なし」が36.2%である。だが、サブリノートの提出（利用）状況が良い者でも16.0%の者が家庭学習の状況が「良くなかった」と回答している。これは考慮すべき点である。

表14-3 「1年生（平成21年度入学生）の家庭学習の変化」

家庭学習の状況	全 体			サブリノートの提出が良い			サブリノートの提出が良くない		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
小学6年～中学1年	43.6%	36.2%	20.2%	42.6%	28.7%	16.0%	1.0%	7.4%	4.3%
（調査人数 94）	100%			100%					

※家庭学習の状況の○は「良くなった」、△は「変化なし」、×は「良くなかった」を表す。

④ 学習時間について

表15「家庭学習時間」の調査結果を参照していただきたい。この表は、平成20年度と今年度（平成21年度）の年度各学年ごとの家庭学習時間である。2・3年生は、学年が上がるごとに学習時間が延びている傾向がある。3年生では、家庭学習に2時間以上の時間を充てている者は、全体の44.5%で前年度は31.6%とから、増加している。全校的に多い時間帯は、1時間以上～2時間未満の者で、3年生34.6%、前年度は20.2%。2年生では、50.0%、前年度31.1%。1年生33.8%であり、いずれも増加していた。また、全校での割合は36.9%で前年度の26.3%より増加した。家庭学習を全くしていない者

は、2年生で若干増加したが、全体では、8.1%であり、昨年度の12.8%より低下した。

表 1 5 「家庭学習時間」

	3 時間以上	2 時間以上	1 時間以上	30分～1 時間	3 0 分未満	していない
1 年（平成21年度）	3. 1 %	15. 4 %	33. 8 %	24. 6 %	15. 4 %	7. 7 %
1 年（平成20年度）						
2 年（平成21年度）	3. 8 %	17. 3 %	44. 2 %	11. 5 %	9. 6 %	13. 5 %
2 年（平成20年度）	11. 3 %	13. 2 %	31. 2 %	17. 0 %	16. 0 %	11. 3 %
3 年（平成21年度）	13. 6 %	30. 9 %	34. 6 %	16. 0 %	0. 0 %	4. 9 %
3 年（平成20年度）	12. 3 %	19. 3 %	20. 2 %	16. 7 %	17. 5 %	14. 0 %
全校（平成21年度）	7. 6 %	22. 2 %	36. 9 %	17. 7 %	7. 6 %	8. 1 %
全校（平成20年度）	11. 0 %	19. 2 %	26. 3 %	13. 2 %	17. 5 %	12. 8 %

6 学習支援としての利用割合

表 16 は、「家庭学習でのサプリノートの利用」の調査結果である。全体の 51.2 %の者はサプリノートを学習の際に役立てていることが分かる。その 51.2 %のサプリノートを学習に役立てている者の内、49.1 %の割合の者は、サプリノートの提出状況が良い者であった。

表 1 6 「家庭学習でのサプリノートの利用」

学 年	利用している		利用していない		調査 対象数
	提出が良い	提出が良くない	提出が良い	提出が良くない	
3 年生	4 3. 8 %	2 2. 3 %	3. 5 %	3 0. 4 %	1 1 2
2 年生	5 5. 7 %	2 8. 9 %	1. 0 %	1 4. 4 %	9 7
1 年生	5 5. 4 %	3 1. 9 %	2. 1 %	1 0. 6 %	9 4
全 校	5 1. 2 %	2 7. 4 %	2. 3 %	1 9. 1 %	3 0 3

7 成果と課題

(1) 成果

① 生徒理解の拡充

サプリノートの活用の成果として、相互の理解度（生徒と教員との関係、保護者と教員との関係、保護者と生徒との関係）の変化が上げられる。これは、教員側、保護者側、生徒側ともに今回の検証結果から言えることであり、生活記録の欄を介して日記に記入し、コメントをやり取りし、コミュニケーションを活発化することで、相手側の気持ちや考え方などを理解することができ、そこから良好な関係づくりをすることができたということである。また、保護者の場合は、自分の子どもの考え方を知る手だてとなり、保護者本人と教員との意見交換や教員と生徒とのやり取りを見ることで、教員理解、学校理解につながるということができたということである。

② 家庭学習の改善に関して

サプリノートの利用の分析結果より、このノートの活用によって、家庭学習時間の増加、習慣化に対して、効果をあげたと考える。このように家庭学習の場において、サプリノートがさまざまな形で利用されているということからもそのように判断することができる。

③ 学習準備活動の確立に関して

生徒のサプリノート利用状況調査の結果より、「持ち物チェック」、「課題の確認」などに利用しているという意見が多く得られた。このことから、サプリノートの利用において、明日の各教科の持ち物や提出物の内容や学習内容を記録し、家庭において確認をするという、学習の準備へのきっかけが作り上げられた。このことから、本研究の目的の一つであった、学習準備性（レディネス）の向上が図られたと考える。

④ 規則正しい生活の確立に関して

自己の日々の活動を記録していくことで、日記としての利用が図られ、振り返り活動に役立てることができた。

自己のその時期、その時の学習状況、生活状況を確認することで、良い点、うまくいかなかった点を検討し、今後の生活に役立てることができる。さらに、生活記録などを毎日継続して記入をすることで習慣化し、それが規則正しい生活の確立に少なからずも効果をあげている。

(2) 課題

① 活用方法及びチェック方法の検討

生活記録の欄の活用では、その有効性を示したが、その反面、この欄を一日一回記入し提出をするということに負担があるという課題も挙げられる。提出しない生徒の多くはこの理由による。また、現状として教員側からは、点検をすることの負担があげられている。この点が実施を継続する上での課題である。

教員側としては、クラス全員分のサプリノートを毎日チェックするのは労力と時間がかかることは言うまでもない。

生徒側も部活動を終え、帰宅、塾などの時間など自分で利用できる時間は少ない者が多い。また、保護者側も一週間に一度であるが、仕事の忙しい面などがあげられている。

これらの点から、記入の際、自由記述の欄の他に、項目を設定しそれに対してのチェックなどの記載方法の簡略化など、様々な方法を検討する必要があると考える。また、教員側も複数の教員での確認をする学年があるなど、より工夫・改善するような手立てを検討して行きたい。

② 提出状況の良くない者に対する取り組み

現在、提出状況が良くない者は固定化している傾向が見られる。今回の結果から、その者の学習状況、生活状況が良くない状態であるということは、一概には言えないのは事実である。それは、前述の提出できない理由に関係している面がある。ただし、学習遅延状態になっている者（学習相談対象者）及び生活状況に安定が見られない者に提出状況が良くない者が多く見られることも事実である。それらの改善を目指して、どのような働きかけを実施し、学習活動の充実や規則正しい生活の定着を図っていくかが課題としてあげられる。

③ さらなる利用便利性の追究

サプリノートは活用を始めて三年目を迎えているが、同一方法での効果を検証するために、今回はあえて内容に関しての改変はしなかった。だが、「ノートのサイズを小さく」「学期に一冊」「長期休業中の記入の方法」「自己評価の欄を設け、生活状況などをチェックする。」「学習質問の欄を設ける」などの意見が上がっている。これらの意見を踏ま

え、さまざまな工夫をすることで、より活用の度合いが高まることが考えられる。今後、形式の変更などを図り、さらなる利便性を追究する必要がある。

④ 家庭学習の充実にむけて

学習活動（家庭学習）の充実に図るには、時間的な制約や、その時期の生徒の状況など、さまざまな要因が課題となって生じてくる。その課題を解決するために状況に合わせた手だて（支援）を行う必要がある。生徒の学習支援のために、学習課題の内容、学習方法の指導を効果的に行うことが大切である。

今回、家庭学習についての質問において、「実施していない」と回答した生徒の理由として「何をしたいのか分からない」という回答が見られた。ただ単に、家庭学習を実施せよと指導していただくだけでは、効果が得られない。学習時間の確保を促していくことも大切だが、その時間で実施する内容、方法を指導していくことが必要である。

最後に、今回のまとめにあたり、家庭学習においてどのような学習課題があったらいいかという調査を生徒に実施した。その結果として多かったのは、「その日の授業で実施した内容の復習プリント」「ワーク」など、授業に直結し、復習・予習ができるような学習課題があればよいという意見であった。これらの意見を考慮し、今後もより良い学習支援方法を検討していきたい。